

博物館だより

No.217

令和6年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2024年12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

休館日 ※情報はR6.11.20現在

◆博物館NEWS 企画展 小宮豊隆生誕一四〇年&開館三〇年記念 生誕四〇年夏目漱石最愛の弟子・小宮豊隆展

「三四郎」は「それから」…どう生きる(た)か
会期：10月20日(日)～12月22日(日)

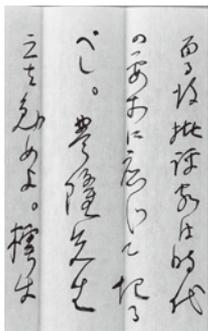
みやこ町岸川久富出身のドイツ文学者で夏目漱石最愛の弟子・小宮豊隆は、文豪・漱石を介して様々な業績を残しました。

漱石の『三四郎』をはじめとする作品モデルや着想のヒントにもなった小宮は、漱石没後『漱石全集』の編纂や『漱石伝』の刊行に加えての日本の伝統文化研究、戦時中は「漱石文庫」をはじめ貴重な文化遺産の保護、戦後は文化力による日本の復興など、「大正教養主義」を体現するかのような篤実な学者として歩みました。生誕140年となるこの年、ご遺族から追加寄贈された新資料を交えてその足跡をたどりま。

なお、本展示には漱石のマンガで知られる香日ゆらさん(漫画家)、新宿区立漱石山房記念館(東京都)の協力を頂いております。

●主な展示資料

- 夏目漱石書簡(明治40年8月)
- 「小宮、評論家になれ!」と漱石から熱いエール
- 寺田寅彦書簡(明治42年正月)
- 小宮を三四郎と宛名書きして出した年賀状



▲漱石は「豊隆先生之を勉めよ」と小宮に評論家の道を勧めた

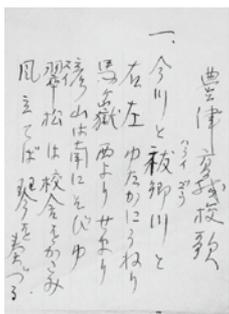
●観覧料 大人 2000円

高校生以下 1000円

※団体料金あり(20名以上)

●開館時間 9時30分～17時

●休館日 月曜・祝日の翌日



▲漱石と小宮の交流から生まれた文芸遺産の一部。右は漱石邸(漱石山房)で行われた木曜会(漱石を囲んでの懇談会)の雰囲気伝える小宮豊隆送別宴図屏風。中央は右の枠内を拡大した小宮の似顔絵。左は小宮が昭和32年(1957)に作詞した豊津高校新校歌成稿(部分)

◆講座・教室・催し物ガイド 12月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

12月7日(土) 9時30分～

【古文書講座】

12月14日(土) 10時～

【みやこ学講座】

12月14日(土) 13時30分～

【古典かな講座】

12月21日(土) 9時30分～

※日程等変更となる場合があります。

※見学会等は別途ご案内します。

博物館で「楽習」始めませんか?

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか? 詳しくは博物館へお問合せ下さい!

★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学習イベントに参加頂けます。

★文化遺産ボランティア豊み隊!養成講座
町の宝をガイド&ガイドするスタッフを養成する講座です。今からでも大丈夫!

年末休館のお知らせ

博物館では館内整理と燻蒸作業のため左記の期間休館致します。このうち臨時休館中における27日(金)までの博物館や文化財業務に関する事は左記へお問合せ下さい。なお、新年は1月4日(土)から開館致します。

*休館の期間

12月23日(月)～1月3日(金)

・うち23(28)日は臨時休館

・29日以降は通常の年末年始休館

*臨時休館中の問合せ先

☎33-11040(図書館)

10月の業務日誌から

10月20日(日)、生誕140年夏目漱石最愛の弟子・小宮豊隆をテーマに「みやこ町ふるさと遺産フェスタ」が開催されました。午前中は「歴史たんけんウォーク」として、小宮がモデルの「三四郎」ゆかりの地めぐりを行いました。

同日午後、夏目漱石と弟子たちを4コマ漫画でユニークに描き出した漫画家・香日ゆらさんによる講演会が行われました。弟子の中でも小宮は重要人物だという香日さんによる講演は、格好の小宮豊隆入門講座となり好評でした。



▲香日ゆらさんによる講演の様子。マンガを交えての漱石と小宮の物語はユーモアと発見のひとつでした



▲町の史跡となった小宮豊隆旧居跡から望む岸川の風景。何気ない景色ですが漱石も羨んだ極上の田園風景です

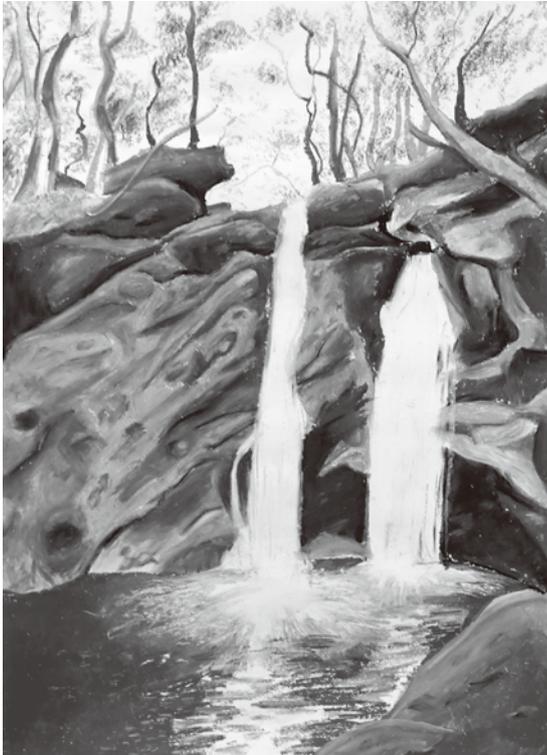
「わたしのお気に入りふるさと遺産」絵画コンクール
「わたしのお気に入りふるさと遺産」作文コンクール 受賞決定!



町内の小中学校の児童生徒を対象に実施した「わたしのお気に入りふるさと遺産絵画コンクール」で、八四九点の応募作品の中から、育徳館中学校三年生の川内柚葉さんが描いた「蛇淵の滝」が見事、最優秀賞に輝きました。優秀賞六点を約三週間、博物館ホールに展示し、入館者による投票を行った結果によるものです。たくさん個性あふれる作品が揃う中で、幻想的な色彩が注目を集めた結果となりました。

また、「わたしのお気に入りふるさと遺産作文コンクール」では、力作揃いの作文の中、黒田小学校五年生の山中美羽さんの「にわとり楽」が見事最優秀賞に輝きました。

おめでとうございます!



絵画コンクール「最優秀賞」受賞作品「蛇淵の滝」



絵画コンクール「最優秀賞」受賞者
川内柚葉さん(育徳館中学校3年生)



作文コンクール「最優秀賞」受賞者
山中美羽さん(黒田小学校5年生)

作文コンクール「最優秀賞」受賞作品
「にわとり楽」

黒田小学校 五年生 山中 美羽
五月のころ、黒田神社から今まで聞いたことのない音が聞こえてきました。
『ヒートン。カンカンカンカン。』

太鼓や笛、足ぶみをする音でした。「あれは何だろう」と、とてもきょうみをひかれました。それが私とにわとり楽との出会いです。このことをきっかけに私はにわとり楽について調べてみました。

「にわとり楽」とは、四百二十年ころ前、二六〇〇年にみやこ町で行われ始めた古くから伝わる祭で、黒田のおさない男の子達が勇かに、華やかに舞いおどります。黒田村にえき病が流行し、村人は黒田神社に「疫病退散」を祈り、にわとりを真似たにわとり楽を奉納したことが始まりです。この祈願により、えき病は治まり以来「たとえ残り三軒になってもにわとり楽を奉納する」とちかいました。そのため三百年以上の間、一回たりとも中断しないで受けつがれてきたそうです。

私は、このことを調べてみて、このお祭りは昔の人がとても大事に、大切にしていたんだなと思いました。えき病のせいで大切な人達がみんな亡くなり、きょうふで絶望したことでしょう。当時は医りようも発達していなかったため、天ばかり何かのたたりをせいで人々は考えたのでしょうか。だから「にわとり楽」という祭りをつくり、神様に「このえき病をなくしてください。」と、命がけで祈っていたと思います。自分の父や母、兄弟姉妹などの家族が次々と亡くなっていくなんて、とてもさみしく心がしめつけられます。想像もできない辛さでしょう。けれど人々の祈りがとどき、にわとり楽のおかげでえき病も治まり、不安や苦しみから解放されて心が舞い上がるような安心感に つつまれたと思います。

科学や医りようが発達している現在では、伝統

を受けついでいくことと同時に、みんなで協力してお祭りをじゅんすいに楽しんでいるのでしょうか。私の弟も、にわとり楽に参加していて、大変な練習にもかかわらず楽しそうにがんばっていたので、私もにわとり楽をしてみたいなと思いました。

その中で、にわとり楽について調べていくと、あるつの疑問が私の頭をよぎりました。
「なんでにわとりなんだろう。」

私はかたづけから調べ始めました。すると私の疑問の答えが見つかりました。にわとりには、幸せや運氣を「とりこむ」という語呂合わせと、日本神話では「神の使い」とされていることから縁起がいいとされています。「天上に住む金のにわとりが鳴いて夜明けを知らせると、天上のにわとりがこれに応じて鳴いている」という言い伝えもあるそうです。

次に、現在のにわとり楽がどうなっているかというところ、黒田のにわとり楽の他に山王楽(国分)、豊国楽(さい川下伊良原)、万葉楽(さい川上伊良原)、の四カ所あるそうです。みやこ町以外に、行橋市では下検地楽、念仏楽(入覚)があり、この他にも築上町では安武楽(安武)、岩戸楽(伝法寺)、高塚楽(高塚)の三カ所があります。京築地域の楽打ちは、いずれも似たような衣装しよで、太鼓などの楽器を使っています。

しかし、近ごろでは少子化で打ち手の数は年々少なくなっているそうです。昔は男の子だけでしたが、今では女の子が参加することもめずらしくあります。にわとり楽は歴史があり、すでに大好きな祭りなので、なくならないでほしいです。

このように、にわとり楽は古くからみんなに愛されているすばらしい祭りだと分かりました。また、にわとり楽をする子が少なくなっていること知り、今の私にできることは、この祭りを楽しみ、みんなにこの祭りの良さを伝えていくことだと思いました。